

# GPTに関する一般的なプロビジョニング問題の トラブルシューティング

## 内容

---

### [はじめに](#)

### [一般的な問題](#)

[GPTが開始しない](#)

[GPTがゲートウェイを検出できない](#)

[ゲートウェイの設定](#)

[GPTホストの設定](#)

[ゲートウェイへのシリアル接続](#)

[GPTがプロビジョニングを完了できない](#)

## はじめに

このドキュメントでは、Kinetic Gateway Provisioning Tool(GPT)を使用したゲートウェイの正しいプロビジョニングを妨げる、一般的な問題について説明します。

## 一般的な問題

### GPTが開始しない

インストールされているPythonのバージョンを確認します。

```
c:\>python --version  
Python 2.7.13
```

GPTの正しいバージョンは2.7.Xです。異なる結果が表示される場合、または複数のバージョンがインストールされている場合は、それらをアンインストールしてみてください。

現在サポートされているのはPython 2.7だけです。

### GPTがゲートウェイを検出できない

#### ゲートウェイの設定

ゲートウェイ(IR809/IR829)で次の設定項目を確認します。

- ホストPCのインターフェイスと同じサブネットで、IR809のGi0ポートとIR829のGi1ポートを設定します

- IR800とGPTホスト間の接続をテストするため、構成IPにpingを実行します
- IR800でパスワードが設定されていないこと、またはデフォルトのパスワードであることを確認します。  
デフォルトパスワードは、C:\Program Files (x86)\Cisco Systems\GPT\scripts\config.iniで変更できます。
- コンソールポートを使用してアクセスできることを確認します。お気に入りの端末クライアントを使用してテストできます。
- 「line vty 0 4」で「transport input all」を設定して、デバイスへのTelnetアクセスを有効にしてみます。

## GPTホストの設定

GPTツールを実行しているホストで次の項目を確認できます。

- アクティブ/存在するファイアウォールを無効にする
- IR800とホストを接続するネットワークインタフェース以外のネットワークインタフェースを無効にします
- Puttyに保存されている既存のCOMxプロファイルをすべて削除します  
PuttyにCOM5プロファイルがあり、ゲートウェイがこのポートに接続されている場合、検出は失敗します（この記事の詳細も参照してください）
- コンフィギュレーションファイルでホストのIPを手動で設定します。  
ファイルの場所：C:\Program Files (x86)\Cisco Systems\GPT\scripts\config.ini  
設定行の例：config.iniのHOST\_ip=192.168.3.2

## ゲートウェイへのシリアル接続

GPTはボンネットの下にあるplink、Puttyコマンドラインのツールを使用して、シリアル経由でIR800に接続し、プロビジョニング中に必要なコマンドを発行します。

このツールを手動で起動して、シリアル接続をテストできます。

成功した試行：

```
C:\Program Files (x86)\Cisco Systems\GPT\scripts>plink.exe -serial COM5  
KJK_IR829_10 con0 is now available  
Press RETURN to get started.
```

失敗した試行：

```
C:\Program Files (x86)\Cisco Systems\GPT\scripts>plink.exe -serial COM5  
Unable to open connection:  
Unable to open serial port
```

ツールの起動時に2番目の出力が表示される場合は、ゲートウェイへのシリアル接続方式を変更してみてください。

1. 次の設定を使用して、正しいCOMポート（たとえばCOM5）のPuttyセッションを作成します。

端末:

- 自動ラップモード（オフ）
- すべてのLFの暗黙的なCR（チェックなし）
- 各CRの暗黙的なLF（未チェック）

シリアル:

- 接続先のシリアル回線：COM9（ゲートウェイが接続されているCOMポートである必要があります）
- 速度：9600
- データビット：8
- ストップビット：1
- パリティ：なし
- フロー制御：XON/XOFF

2. 次のようにptool.exeを起動して、動作しているかどうかを確認します。

```
C:\Program Files (x86)\Cisco Systems\GPT\scripts>plink.exe -serial COM5
```

```
KJK_IR829_10 con0 is now available
```

```
Press RETURN to get started.
```

3. 成功したら、C:\Program Files (x86)\Cisco Systems\GPT\scripts\getRouterDetails.py:  
Change:

```
p = pexpect.popen_spawn.PopenSpawn('plink -serial '+str(serial_port))
```

次のようにします。

```
p = pexpect.popen_spawn.PopenSpawn('plink '+str(serial_port))
```

これにより、plink.exeツールはPuttyから保存されたセッションの詳細を使用し、接続が機能するようになります。

## GPTがプロビジョニングを完了できない

GPTがゲートウェイを検出してプロビジョニングを開始できるが、プロセス中に失敗する場合は、次の点を確認できます。

- GPTホストコンピュータに接続されているインターフェイスの設定が保存されていることを確認します
- フラッシュにアップグレードイメージ用の十分な空き領域があることを確認します（必要な

場合 )

- プロビジョニング中に表示されるログを調べて、さらにトラブルシューティングや問題がないか確認します

## 翻訳について

シスコは世界中のユーザにそれぞれの言語でサポート コンテンツを提供するために、機械と人による翻訳を組み合わせて、本ドキュメントを翻訳しています。ただし、最高度の機械翻訳であっても、専門家による翻訳のような正確性は確保されません。シスコは、これら翻訳の正確性について法的責任を負いません。原典である英語版（リンクからアクセス可能）もあわせて参照することを推奨します。